

**発行所**  
 札幌市北区北15条西7丁目  
 北大医学部同窓会  
 TEL&FAX (011) 706-5007  
 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
 http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/  
**編集人** 田中 伸哉  
**発行人** 浅香 正博

# 北大医学部同窓会新聞



「新緑の銀杏並木」

木佐 健悟 (80期)

## CONTENTS

- (1) ・会長就任のご挨拶……………浅香 正博  
 ・卒業生に贈る言葉……………玉木 長良
- (2) ・平成23年度総会報告並びに  
 新入会員歓迎会報告  
 ・新入会員を歓迎して……………浅香 正博
- (3) ・新入会員あいさつ……………湯澤 明夏  
 ・第88期生(98名)名簿  
 ・平成23年度総会資料
- (4) ・教授退官のご挨拶  
 本間 さと 三浪 明男 今村 雅寛  
 小山 司
- (5) ・教授就任のご挨拶  
 坂本 直哉 玉腰 暁子 山下 啓子  
 ・フラテ祭2012 9月開催
- (6) ・平成23年度  
 医学研究科・医学部医学科各賞受賞者  
 畠山 鎮次 谷村心太郎 松宮 英規
- (7) ・平成23年度フラテ研究奨励賞報告  
 ………………櫻木 範明  
 受賞の喜び  
 佐藤 大介 小野寺智洋 木村 太一  
 氏家 英之
- (8) ・理事会・評議員会報告  
 ・新役員、評議員・予備評議員、  
 編集委員名簿
- (9) ・告知板
- (10) ・新刊書紹介 ・ご逝去者  
 ・一面の写真説明 ・編集後記  
 ・お詫びと訂正



## 会長就任のご挨拶

北海道大学  
 医学部同窓会会長

浅香 正博(48期)

この4月より北海道大学医学部同窓会会長に就任いたしました。初代の安保重先生から数えて13代目になります。会長になることは全く考えていなかったため、理事会から推薦を受けたときは正直ただびっくりしたというのが実感です。早速4月7日に行われた北海道大学医学部の入学式での挨拶を依頼され、大慌てで原稿を用意しました。その中でも述べたのですが、北海道大学医学部同窓会会長は70歳を超えた威厳のあり重々しい方がなされている印象が強く、私のように昨年定年退職をしたばかりのものには、軽すぎて務まらないのではと少々危惧いたしております。

私は昭和47年に北海道大学医学部を卒業した48期生です。当時は、学園紛争の最も華やかな時であり、その影響で医学部の卒業式は中止になり、一人一人事務室に向いて卒業証書をいただきました。この年の卒業試験に合わせるように冬期オリンピックが札幌で開催され、オリンピックを観ながら試験勉強をするという大変な状況下でしたが、奇跡的に全員無事卒業することができました。医学部同窓会について学生時代には存在すら知りませんでしたが、卒業後、評議員や編集委員の仕事をするようになってから、医学部の同

窓生にとって重要な組織であることが理解できるようになりました。卒業後は、40年近く内科畑をひたすら歩き、2008年から3年間は北海道大学病院長として独立行政法人化以後の北海道大学病院の立て直しに力を入れさせていただきました。昨年からは医学研究科にがん予防内科学講座という小さな講座を立ち上げ、中央キャンパス総合棟で研究生活を送っております。北海道大学医学部入学以来、米国留学の2年間を除くと46年にわたって北海道大学構内で暮らしていたこととなります。

北海道大学医学同窓会は現在6,300名を超える会員を擁する大きな組織に発展しています。同窓会の仕事は、年3回の同窓会新聞の発行、隔年の同窓会名簿と同窓会誌の発行が主なものですが、医学部との合同の行事も時折行われます。北海道大学医学部は創立100年まであと7年ほどになりました。これから様々な企画が計画されると思いますが、医学部同窓会もそれに合わせて医学部を支援していきたいと考えております。会員の皆様には、これからも一層のご支援をよろしく願いいたします。



## 卒業生に贈る言葉

北海道大学医学部長

玉木 長良(会員2)

北海道大学医学部88期の皆さん、卒業おめでとうございます。医学部教職員を代表し、皆さんの門出をお祝いいたします。

近年、医療を取り巻く環境は険しいものがあります。長引く不況に加え、昨年の東日本大震災とそれに伴う放射線災害などがさらに厳しい社会状況をつくり出しています。このような厳しい社会環境の中で皆さんは社会人として旅立つこととなります。

私は皆さんに三つのお願いがあります。まず皆さんは卒業して医師という専門職業人として社会に旅立ちます。悩める患者さんを深く理解し、正しく診断し、適切な治療に導き、疾病を克服することは医療の基本です。医療の現場では、悩める患者さんそれぞれの心を十分理解し、冷静かつ的確に対応できるような医師になってください。

第二に、現代社会では世界的なグローバルスタンダードが求められ、医療についても同様です。診療行為や医学研究・医学教育に至るまで世界的な水準、基準が設けられようとしています。このような中で社会に旅立つ皆さんは、広い視野に立ち、社会が求めるものを自ら確かめ、最新の医療に目を向けてください。そのためには英語に慣れ親

しみ、日々英文論文に目を通してください。最新情報を入手し、これらを批判的に読み、自分なりの素養として消化し活かすことが、より高い水準の医学知識を増やし、最高水準の医療を実践することに役立ちます。

開学以来続く本学医学部の変わらぬ使命は、次世代を担う優れた基礎および臨床医学研究者、日本の医療をリードできる臨床指導医の育成、世界最高水準の医療を提供し、世界最先端の医学研究を推進することです。今、その北大医学部を卒業する皆さんに国民が負託する使命は、「次世代を担う基礎および臨床医学研究者」や「日本の医療を様々な形でリードできる臨床指導医」になることです。ぜひ将来、皆さんがこの使命を果たしてください。これが三番目にお願いしたいことです。

私は大学時代にヨットクラブで心と体を鍛えました。日本人で初めてヨットで世界一周航海を達成した福井謙一さんは、「夢を目標に変えて挑戦してください」と多くの人にいつておられます。皆さんもこれから大航海の前に、大きな夢を掲げ、それに向かって邁進してください。皆さんがこれから栄光の軌跡をたどられることを祈念しています。(平成23年度 学位伝達式告辞より)

# 平成23年度総会報告並びに新入会員歓迎会報告

## ■平成23年度総会報告

北大医学部同窓会平成23年度総会が2月13日(月)午後6時より札幌パークホテル「パールルーム」において開催された。

会議に先立って、前年度総会以降に逝去された79名の先生のご冥福を祈り黙祷が捧げられた。総会ではまずフラテ研究奨励賞の授与式が行われた。笠原正典先生(56期)の司会により佐藤大介先生(74期)、小野寺智洋先生(75期)、木村太一先生(77期)、氏家英之先生(78期)の4名(佐藤先生と小野寺先生は代理出席)に同窓会長の西信三先生(42期)から表彰盾と副賞の目録が手渡され、お祝いの言葉が述べられた。

次いで、会議が行われた。まず、担当となっている先生方から以下のような報告事項があった。有賀正先生(54期)から庶務報告および事業報告が行われ、医学部の教員と学生で構成される学友会への支援の内容(第50回医学展、学友会懇話会2回)が紹介された。研究奨励賞の選考結果について櫻木範明先生(52期)から、11名の応募があり厳正な審査の結果4名に決

まったことが報告された。編集理事の佐久間一郎先生(55期)より編集委員会に関して、平成23年度は同窓会新聞を3回と同窓会誌を発行したこと、平成24年度は同窓会名簿の発行の年となっており同窓会員の皆さんの協力をお願いしたいと報告があった。会計理事の吉岡充弘先生(60期)から平成23年度会計中間報告があった。

続いて、協議事項として吉岡先生から平成22年度会計決算が提案された。監事の佐野文男先生(37期)より平成22年度会計監査結果が正当である旨の報告があり、協議の結果承認された。約40分で総会は終了となった。

## ■第88期新入会員歓迎会

総会に引き続き午後7時より札幌パークホテル「光華」にて第88期新入会員歓迎会が開催された。医学部の卒業生がそろって参加しやすい日ということで、医師国家試験の最終日の夜に開催することが恒例となっており、本年は2月11日(土)から13日(月)の3日間が国家試験だったことから2月13日(月)の開催となった。参加した88

期は74名、同窓会員は33名であった。

会は西原広史先生(71期)の司会で始まった。最初に、同窓会長の西信三先生(42期)から、国家試験のねぎらいの言葉に続き「最近の卒業生には同窓会を敬遠する人もいるようだが、先輩は後輩によくしてあげたいという気持ちを持っているので、積極的に同窓の先輩にコンタクトを取ったり、同窓会活動に参加してほしい」と新入会員を歓迎する挨拶があった。次いで、教職員を代表して大学院医学研究科・医学部長の玉木長良先生(会員2)から「医学部で学んだのは最低限の知識で、正解があつて合格を目指す勉強だったが、これからの医師人生は一生勉強で正解がない。そういう勉強のスタートラインに立ったと思ってほしい。北大は歴史があり、北海道はもちろん国内、世界に先輩がいる。北大医学部を卒業することを誇りに思って、困ったことがあれば先輩の先生方に相談してください。」と挨拶があった。

池端隆先生(27期)乾杯の挨拶で開宴となった。88期の新入会員を代表して湯澤明夏さんからの挨拶があった。その後、松

野誠夫先生(22期)、中川昌一先生(28期)、齋藤和雄先生(35期)、長瀬清先生(40期)、中村仁志夫先生(44期)、本間研一先生(47期)の各先輩から新入会員に向けたスピーチが行われた。

会を通して、各テーブルでは新入会員と先輩方が談笑したり、記念写真を撮ったりする姿が見られた。

会の後半の余興ではまず高下泰三先生(32期)が新入会員へのメッセージを込めてマイウエイの歌を熱唱された。ついで、新入会員の佐々木克幸君、藤田啓誠君による漫才が披露された。国家試験1週間前にかかやるように言い渡された、というトークから始まり、北海道の話題と医学の話題を交えた軽快な掛け合いで会場から大きな笑いが巻き起こった。

桜田教夫先生(専7新)の締め乾杯に続き、毎年恒例となっている「都ぞ弥生」を合唱した。参加者全員が会場全体で輪に形に広がり肩を組んで、新入会員の大屋博充君の前口上に続き、全員で「都ぞ弥生」を大合唱し歓迎会は終了した。



全員で都ぞ弥生の大合唱



熱唱する高下泰三先生(32期)



歓迎のスピーチをする中川昌一先生(28期)



88期 佐々木克幸君、藤田啓誠君の余興



歓迎のスピーチをする松野誠夫先生(22期)

## 新入会員を歓迎して

北海道大学医学部同窓会会長 浅香 正博(48期)



医学部88期の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。同窓会は皆さんを心より歓迎いたします。皆さん方の入会により、北海道大学医学部同窓会会員数は6,300名を超えました。今年の北海道大学医学部の医師国家試験の現役合格率は98%ときわめて高い値を示しました。これも卒業生一人一人のたゆまぬ努力の賜物と思いますが、医学部長を初めとする医学部教職員の医学教育に対する熱意が報われた結果でもあります。

皆さん方はこれから進んでいく医師の道への思いをどのように抱いておられるでしょうか。今は、卒後臨床研修制度に基づき医師としての第一歩を踏み出していることと思います。これから40年以上にわたって医師としての人生を歩んでいくことになりますが、希望に満ちていることと拝察いたします。医師という職業は、一個の個人である患者と直接向かい合い個人情報共有しながらその病気を治していくことを目的としています。したがって、医師になっ

たと同時に他の職業にはない大きな荷物を背負い込んだことになります。学生時代は自分の評価を自分で行うことができましたが、これからは自分で評価できる部分は少なく、患者、同僚、医療スタッフによって評価されることになります。一般社会も他の職業よりはるかに厳しい目を持って皆さん方を見つめることになるでしょう。患者の命を預かる重要な職業ゆえに、大きな義務も生じているのです。ノブレス・オブリージュ(高貴なるゆえの義務)の世界に否応なく入り込んでいくことになるのです。

初期臨床研修制度の義務化は、医師としての基礎トレーニングに必要な期間と思われませんが、この制度は研修医を一人前の医師と見ていないため、常に指導医の庇護のもとで診療を行わなければならない前に

どんどん進みたい人にはもの足りないかもしれません。初期研修が終了するとようやく自分の専攻を決めることができ、医療行為を自己責任で行うことが可能になります。それから真の意味の医師としてのスタートを切るようになります。

北海道大学医学部同窓会には90年を超える歴史があり、同窓会名簿や同窓会誌を一覧するとこれからの医師としての人生をすべて鳥瞰することができますので、一度じっくりと読まれることを勧めます。同窓会は、入会された若い皆さんの発展と飛躍を心から期待し、できる限りの支援をいたしますので、皆さんも積極的に同窓会活動に参加して下さい。

# 新入会員あいさつ

88期生代表 湯澤 明夏



第88期生を代表してご挨拶させていただきます。

先日はお忙しい中、盛大な新入会員歓迎会を開催していただき、誠にありがとうございました。

北海道大学医学部に入学してから6年間、私達は講義・実習、部活、その他様々な場面で先輩方のお世話になり、同時に

様々な分野でご活躍されている諸先生方の姿に感銘を受けてきました。この度、このような素晴らしい先輩方の仲間入りをし、伝統ある北海道大学医学部同窓会の一員となれることを、心より嬉しく誇りに思います。

国家試験を終え、私達はようやく医師としてのスタートラインに立つことができました。

した。これまでは学生として家族や友人、諸先生方、その他多くの方々の助けを借りてばかりでしたが、今後はお世話になった分を少しでも社会に還元できるように、与えられる側から与える側へと成長していきたいと思っています。

現在ますます少子高齢化が進んでいる社会において、最期まで自分らしい生き方を求める風潮が強くなり、人々が求める医療は多様化の一途をたどっています。一方で産婦人科や小児科などの医師不足が叫ばれて久しく、また私の地元の病院では麻酔科医の撤退による病院運営の危機も叫ばれています。このような死生観の変化や

医師の偏在化、また医療費の削減など、現代の医療を取り巻く環境は数多くの問題を抱え、複雑さを増しています。このような時代に私達は医師としての第一歩を踏み出すわけですが、常に初心を忘れず謙虚に、しかし自身の信念と向上心を持ち続けて前に進んでいきたいと思ひます。今後もよき先輩として厳しくも温かいご指導をよろしく願ひいたします。

最後になりましたが、諸先生方のご健康と一層のご活躍をお祈りし、挨拶とさせていただきます。

## 第88期生(98名)名簿

平成24年5月10日現在

会員氏名	出身校/勤務先	会員氏名	出身校/勤務先	会員氏名	出身校/勤務先	会員氏名	出身校/勤務先
青山 紘希	東京学芸大附属/武蔵野赤十字病院	川崎 達也		鈴木 和治		藤田 啓誠	
新井 洋輔	/北見赤十字病院	木内 隆之	長野県飯田/	鈴木 麗子	私立桜蔭/藤澤市民病院	藤田 政道	私立西大和学園/
池田 拓磨	仙台第二/	菊池謙一郎	都立大泉/	高島 翔太	札幌南/	武城 怜史	渋谷教育学園暮張/
石川 隼		菊池 航紀	札幌南/	高宮宗一朗	札幌北/帯広厚生病院	古御堂 純	札幌北/苫小牧市立病院
石戸谷裕樹	札幌南/	鬼頭 健一		滝新悠之介	聖光学院/	北條 正洋	桐朋/
石渡 義之		草島英梨香	札幌南/北海道大学病院	武田 圭史	札幌南/	星野 隼矢	前橋/伊勢崎市民病院
泉 真祐子	江戸川学園取手/	汲田 翔		土田 和久	札幌北/	堀内ハンナ	安積黎明/佐久市立国保浅間総合病院
井戸川寛志	群馬県立太田/釧路赤十字病院	久米 菜央	桜蔭/	出口 雄規	開成/帯広厚生病院	本澤 大志	私立武蔵/
稲川 拓磨	海城/旭川赤十字病院	黒木 茜	札幌南/	富田 理哉	札幌南/	本間 健人	北嶺/JR東京総合病院
井上 真希	宮城県第一女子/	木場 宣宏	麻布/災害医療センター	豊永 拓哉	大阪府立三国丘/	前川 嵩太	
今福 恵輔		小林 慧悟	三重県高田/虎の門病院	長沼 亮滋	浅野/勤医協中央病院	三井寺浩幸	
打浪 雄介		小林 康磨	春日部/	仲野 一平	札幌南/苫小牧市立病院	三浦 隆洋	
大島 有可	札幌南/	小松恒太郎		中村 文彦	札幌南/	宮原 洋司	/成田赤十字病院
大槻 雄士	大阪明星/	境 達郎	立命館慶祥/砂川市立病院	西澤 夏将	札幌北/北九州総合病院	持田 郁己	滋賀県立膳所/
大場 彩音	旭川東/市立旭川病院	坂井 俊朗	/札幌東徳洲会病院	萩原 光	サレジオ学院/日鋼記念病院	百瀬 匡亨	
大屋 博充	千葉県立長生/成田赤十字病院	坂本 洋平	開成/	橋詰 勇祐		森田 裕介	江戸川学園取手/市立千歳市民病院
岡村 俊介		佐々木克幸	兵庫県立長田/砂川市立病院	長谷川祐太	愛知県立旭丘/	諸星 直輝	北嶺/勤医協中央病院
岡本 迪成	開成/	佐々木 瞳	旭川東/	濱口 大輔	神奈川県立相模原/	八木 優樹	広島学院/
沖下 卓也	南山/	佐藤 未知	秋田/大崎市民病院	早川 輝	鳥巣/北大学院医学研究科法医学分野	山津 幸恵	私立白鷗大学足利/
小熊 昂	札幌西/	佐藤 峰嘉	北嶺/砂川市立病院	原 和也	札幌北/	湯澤 明夏	札幌南/滝川市立病院
小野 愛菜	茗溪学園/那覇市立病院 診療部	三本松 譲	開成/	比嘉 逸人		吉田 祐一	札幌西/苫小牧市立病院
加藤 拓也	岩田/	志智 俊介	岩見沢東/苫小牧市立病院	百貫 幸代	白陵/函館五稜郭病院	萬 翔子	中標津/和歌山県立医科大学附属病院
加藤 喜哉	函館ラ・サール/市立札幌病院	柴田 ひな	室蘭栄/荏原病院	百貫 亮太	北嶺/函館中央病院	渡邊加奈子	札幌北/
亀田 浩之	愛媛県立松山東/帯広厚生病院	神野 敦	麻布/神縄県立中部病院	平田 幸司	県立福岡/苫小牧市立病院		
河口 洋平	私立武蔵/	杉本 明彦	遠軽/	福田 直樹	/市立旭川病院		

※出身校は同窓会新聞に掲載することにご了承いただいた方のみ掲載、勤務先は5/10までご連絡いただいた方を掲載しております。

## 平成23年度総会資料

### 平成22年度北海道大学医学部同窓会会計収支決算報告書

収入の部 平成23年3月31日

項目	予算額	収入額	実行率(%)
会費収入	20,281,000	18,255,000	90
事業関連収入	160,000	184,000	115
広告収入	150,000	180,000	120
販売収入	10,000	4,000	40
雑収入	90,000	73,107	81
利息収入	10,000	1,101	11
保険事務費	80,000	72,006	90
当年収入額	20,531,000	18,512,107	90
前年繰越金	4,169,225	4,169,225	
収入合計額	24,700,225	22,681,332	92

### 支出の部

項目	予算額	支出額	実行率(%)
事業費	13,780,000	11,937,798	87
総会・新入会員歓迎会	1,100,000	775,565	71
新聞・名簿印刷費	5,745,000	5,078,682	88
通信運搬費	2,300,000	2,126,471	92
記念品費	410,000	212,600	52
学友会助成金	1,600,000	1,600,000	100
同窓会ホームページ経費	60,000	84,000	140
名簿管理等アポイント	500,000	0	0
研究助成	2,065,000	2,060,480	100
総務費	8,470,000	8,240,660	97
職員給与費	4,400,000	4,372,562	99
諸保険事業主負担	800,000	846,740	106
諸謝金	100,000	100,000	100
会議費	450,000	284,500	63
渉外費	50,000	14,500	29
旅費交通費	150,000	6,720	4
印刷製本費	1,900,000	1,994,784	105
通信費	200,000	322,769	161
消耗品費	200,000	195,792	98
手数料・広告料	20,000	12,348	62
備品購入費	200,000	89,945	45
予備費	300,000	0	0
当年支出額	22,550,000	20,178,458	89
収支差額	2,150,225	2,502,874	次年度繰越額

### 平成22年度北海道大学医学部同窓会特別会計報告書

平成23年3月31日

銀行名	預金の種類	平成22年3月末の預金額(円)	利息(円)	預金額合計(円)	備考
三菱UFJ信託銀行	スーパー定期	9,507,730	15,215	9,522,945	
三菱UFJ信託銀行	スーパー定期	9,181,727	15,321	(9,197,048)	H22年12月6日、「三菱UFJ信託銀行」から
みずほ信託銀行	スーパー定期	(9,197,048)	0	9,197,048	「みずほ信託銀行」に定期預金口座を変更
住友信託銀行	自由金利型定期	10,087,478	24,031	10,111,509	
北洋銀行	スーパー定期	3,033,162	7,878	3,041,040	
北洋銀行	普通預金	182,570	37	182,607	
合計		31,992,667	62,482	32,055,149	

### 平成22年度監査報告

平成23年4月8日および4月12日、平成22年度北海道大学医学部同窓会会計収支決算状況の監査を慎重に実施した。監査の結果、出納簿および関係書類の整備、並びに特別会計の預金等の会計処理は、適正かつ正確に行われているものと認めた。従って、平成22年度の北海道大学医学部同窓会の会計処理は、決算書通り正当であると認めた。

北海道大学医学部同窓会 監事 平塚 勇  
会長 西 信三 殿 監事 佐野文男  
平成23年4月12日

注釈) 収入の部 1.会費収入は予算額に対し、実行率90%、収入額18,255,000円であった。 2.事業関連収入は予算額に対し、実行率115%、収入額184,000円であった。 3.雑収入は予算額に対し、実行率81%、収入額73,107円であった。 4.当年収入額は予算額に対し、実行率90%、18,512,107円となり、これに前年度(平成21年度)繰越金4,169,225円を加えた収入合計額は22,681,332円であった。

支出の部 1.事業費はホームページ経費が予算額を超えたが、他の項目は予算内で支出され、予算額に対して、実行率87%、支出額11,937,798円であった。 2.総務費は諸保険事業主負担、印刷製本費、通信費が予算額を超えたが、他の項目は予算内で支出され、予算額に対し、実行率97%、支出額8,240,660円であった。 3.予備費の支出はなかった。 4.当年支出額は予算額に対して、実行率89%、20,178,458円であった。 5.収支差額は収入合計額から当年支出額を差し引いた2,502,874円となり、この額が次年度(平成23年度)繰越額となった。

## 教授退官のご挨拶



「定年退職ご挨拶」  
生理学講座  
時間生理学分野

本間 さと  
(48期)

1966年に北大医学進学課程に入学してから、1年余りのドイツ留学期間を除き、現在まで、人生の大半を北海道大学で、学生、病院医員、教員として過ごし、本年3月31日に北大医学研究科生理学講座時間生理学分野の教授を退職いたしました。ここに、北大医学部同窓会の皆様にご挨拶を申し上げます。

医学部を卒業した1972年当時、どの大学も紛争の名残で若手医師育成システムが崩壊していました。そこで、とりあえず生理学第一講座の大学院生となったのが、その後の人生を決める結果となりました。大学院卒業後は、一旦臨床医を志し小児科に入局して1年間新人研修を受けました。その後、臨床を続けるかどうか悩んだ末、二兎を追うのをやめて研究に専念することにし、伊藤隆教授が主宰していた第三解剖で足かけ4年間研究を続けました。この間、1年余り、ゲッチンゲン市のMax-Planck研究所神経化学部門に子連れ留学いたしました。

大学院を卒業して5年たった1981年、第一生理で助手の席が2つ空く事態が生じ、手持ちの私にもようやく助手のポジションが回ってきました。その後、助手、講師、助教授、教授、そして昨年からは再雇用の特任教授として、ずっと第一生理で過ごしてまいりました。この間、教室の名前は二度ほど変わりました。

が、一貫して生物リズム研究を行ってきました。研究を開始した当初はホルモンリズム計測のため徹夜の連続採血が続きましたが、分子レベルでの研究の進展、リアルタイム測定のための種々なツールの導入は研究手法を一変させ、現在では細胞、組織、そして個体レベルで時計遺伝子発現リズムを追うことが可能となりました。この間、傍観者ではなく当事者としてこれらの発展の一端を担うことができ、大変幸運でした。

教育に関しては、生理学実習で30年間、3年目学生全員に耳採血、静脈採血を課しましたので、生まれて初めて行った採血の指導を覚えている同窓生も多いかと思います。生理学は、最も落第率の多い科目として医学部内では有名でした。理解が難しいのは、生理学が生体の「正常機能」を対象とする学問であり、暗記が役立つ科目からですが、北大医学部の学生としての最低限の基準は譲ることができなかつたので、結果として落第率が多くなりました。しかし、評価は非常に重い役目であり、退職して一番うれしいことは、学生の採点評価をしなくて済むことです。

教授になってからは、全国的に女性教授が少ないため、中央での審議会等に引っ張りだされることが多くなり、研究に割く時間が減りましたが、教員として約30年間、好きな研究が出来たことは、楽しかった、の一言に尽きます。同窓生の皆様は心より御礼申し上げます。4月1日からは、寄附講座時間医学講座にて、もう少しプロジェクト研究を中心に研究を続けさせていただく予定です。今後ともよろしく願い申し上げます。



「退職によせて」  
機能再生医学講座  
整形外科学分野

三浪 明男  
(48期)

北海道大学の退職を迎えるにあたり、北大医学部同窓会の先生にこれまで私個人および北大整形外科学教室にお寄せいただいたご高配・ご厚情に心より感謝申し上げます。

北海道大学整形外科学教室に1972年に入局して以来、関連病院での外勤と留学の3年半を除き、医師および教育者として人生の大部分を北海道大学でお世話になりました。結局、医師としての40年間のうち36年を大学で過ごすことになりました。学生の6年間を加えますと42年にもなります。四季折々の美しい風景を見ながら毎日大学に通っておいりましたので、このたび北大を去ることとなり、そのような景色を見ることができなくなるかと思つと一抹の寂しさを感じております。

2000年に、北海道大学大学院医学研究科高次診断治療学専攻（現在は医学専攻）機能再生医学講座整形外科学分野教授に就任いたしました。「若手研究者に対する教育と基礎研究の柱の構築、大学院生に対する研究指導の充実、臨床的センスを持った専門医の養成」を第一の目標として掲げることといたしました。このために毎週、教室の全ての先生の参加による多くの

conferenceを開き、整形外科の知識・技術のレベルアップと基礎研究の評価の高い雑誌への掲載を目指してまいりました。まだまだ不十分ですが、次第に結実して来ているように感じております。今後の成果に強く期待しております。

私の教授任期中に同門の8名の先生が北大あるいは他大学の教授に就任され、大変うれしく思っております。全国の5つの大学の整形外科主任教授が北大出身でした。また、任期中に企業・団体のご支援により2つの寄附講座を開設することが出来ました。

研究については、軟骨再生を中心とした組織工学と糖鎖解析に基づく変形性関節症・骨粗鬆症の病態解明さらに超早期診断と予防・治療に最も力点を置きました。また、厚労省科学研究課題「関節リウマチ上肢人工関節開発に関する研究」の主任研究者を6年間務めさせていただき、現在医師主導型臨床治験として私達が開発した「新規人工手関節」の臨床応用を目指して治験実施中です。

北大医学部はあらゆる分野において一流の仕事ができるような人材と環境が整っています。これからもますます発展し、わが国の医療の発展に貢献されることを心からお祈りしております。



「造血細胞移植と  
ともに歩んだ30年」  
内科学講座  
血液内科学分野

今村 雅寛  
(49期)

この度、私は14年5ヵ月の任期を終え、北海道大学大学院医学研究科内科学講座血液内科学分野教授を退任致します。昭和42年に北海道大学医学進学課程に入学後、40年以上も大学にいたことになります。私の専門は血液内科学のうちでも造血細胞移植ですが、これは3年間の米国留学を終え、昭和55年1月末に帰国したときに端を発します。当時、ヒトでの同種骨髄移植の成績はまだ不安定でしたので、マウスを用いた同種骨髄移植の実験系を立ち上げ、移植後に起こる最も重篤な合併症である移植片対宿主病の病態解析とその制御に関する実験に取り掛かりました。しかし、数年のうちに、ヒトの同種骨髄移植の成績が徐々に良くなり始めましたので、早急にヒトでの移植に着手する必要性も感じ、第1例目は昭和61年に施行しました。第2例目は、移植前に重度の肝障害を繰り返し、移植の適応さえ危ぶまれた症例でしたが、何とか肝障害を抑えこみ、昭和63年に移植を施行することができ、長期生存例となりました。臨床家冥利に尽きる経験をするこ

造血細胞源の拡大、骨髄バンク・臍帯血バンクの設立、骨髄非破壊の前処置法の確立等、造血細胞移植医療は発展し続けています。また、抗体を含む新規分子標的治療薬等との併用で治療率の向上を目指す試みが多くなっています。私が医学部を卒業した頃には、想像もできなかったような種々の治療法が、この20～30年で多く生み出され、造血器悪性腫瘍・難治性疾患で悩む多くの方にとっての大きな福音になっているのを目の当りにする機会に恵まれました。

幸いにも、無菌室が27床と増え、平成23年6月9日の医学研究科教授会で、内科再編に伴う人事異動も含めた血液内科統合の承認がなされ、8月1日付けで完了しました。

血液内科の一本化により、診療・研究・教育において飛躍的な発展が望める体制が漸く確立できたことになり、関連各位および部署にとっても非常に大きな意義を持っております。教室員が、ここを基盤に国内外で縦横無尽な活躍をしてもらえれば私のこの上ない喜びとなります。

最後に、北海道大学医学部・医学研究科の皆様のますますのご健勝とご発展をお祈りしまして、私の退任のご挨拶とさせていただきます。



「定年退職ご挨拶」  
神経病態医学講座  
精神医学分野

小山 司  
(49期)

本年3月をもちまして北海道大学大学院医学研究科精神医学分野教授を定年退職しました。昭和42年4月に北海道大学医学進学課程に入学して以来、シカゴ大学とケースウエスタン・リザーブ大学での研究生活を除いた43年間、北大キャンパスで誠に充実した日々を過ごさせていただきました。この間、春夏秋冬、さまざまな思い出があつて、尽きることがありません。

精神医学教室に入局してからは、良き恩師や先輩、同僚、また優秀な後輩諸氏に恵まれて、さまざまな沢山の仕事に取り組んで、いろいろ面白い経験をしました。2年半に及ぶ海外留学経験では、最後までアメリカの精神文化には馴染めませんでした。新しい考えやポレミックなテーマについて、人が注ぎ込むエネルギー量には常に圧倒されました。また、研究体制の合理性や機動力の違いも目撃されました。この体験は後の教室運営、特に研究戦略の展開に非常に役立ちました。

平成5年に私が精神医学分野を担当して足掛け19年。この間、精神医学と精神科医療の潮流に大きな変化がありました。フロ

イトに象徴される力動的精神医学から現在の生物学的精神医学へ、主観的、理論的な伝統的診断から計量的操作的診断へと振子が大きく振れ、研究面では遺伝子解析研究や形態・機能画像研究のめざましい進展がありました。医療面でも長期入院中心から地域ケアを基本とした開放化が長足に進み、精神科病院の近代化整備事業によって治療環境も一変しました。法体制の整備が進み、患者の人権面への配慮は当然のこととして実践されているのが現状です。

また、移植医療やがん治療等の身体疾患の高度先進医療に伴い、精神面でのケアを要する患者が増加しました。北大病院では精神科が他科と連携する「コンサルテーション・リエゾン活動」が日常化し、看護師、薬剤師、臨床心理士も参加する多職種チーム医療の展開へと発展しています。これらが全て若い教室員たちの熱心な取組の成果であることは言うまでもありません。誠にありがたいことと思っています。

これまで、同窓会の皆様のご支援をいただきました。大過なく定年の日を迎えることができましたことは喜びに堪えません。ここにあつてお礼申し上げます。

## 教授就任のご挨拶



内科学講座  
消化器内科学分野  
坂本 直哉  
(会員2)

2012年3月1日付で北海道大学大学院医学研究科内科学講座消化器内科学分野の教授を拝命しました。このような望外の栄誉をお与えくださいました諸先生のご支援とご厚情に心より深謝いたします。

私は1987年に東京医科歯科大学を卒業後関東の地域拠点病院の研修を経て、当時発見されて間もないC型肝炎ウイルスの遺伝子解析の研究で学位取得後、米国コ

ネチカット州立大学にリサーチフェローとして留学し、肝炎ウイルス感染モデルの構築、新規治療に関する研究を行ってきました。私は一貫して臨床家としての視点から病態の解明と新規治療法の創出をめざし、基礎研究者、欧米の研究者に負けない気持ちで研究を続けてきました。私の属していた東京医科歯科大学消化器内科は2000年にできたとても若い教室でありこれまで主任教授とともに様々な体制作りに取り組んできました。このような今までやってきた教室作りの経験を生かしていきたいと思

います。消化器内科のセールスポイントは幅広い疾患領域と数々の最先端機器を使

た多彩な診断・治療手技、そしてそれを担う豊富な人材です。この特徴を最大限に生かして各専門領域のバランスのとれた総合消化器内科として発展させ、若手の集まる魅力的な教室にしていきます。

大学と一般病院での卒後研修の大きな違いは大学院教育の有無でありそれが大学研修の最大のアドバンテージです。従って、臨床医であることを生かしたレベルの高い基礎・臨床研究を進めていくことで大学院教育を充実させ、修了後様々な領域で活躍する、リサーチマインドを持ち指導力のある一人前の医師、つまり「アカデミック・フィジシャン」になってもらうことを目標にしていきます。

大学臨床教室は診療・研究・教育が混然一体となって、一人前の医療人の育成を総合的、機能的に行う組織体です。上の述べた教室の体制整備を進めていくことで、門戸を叩いて来る若手の志向・適正に即した多様なキャリアパス(先端治療、プライマリケア、研究、留学、教職など)を提供でき、消化器内科こそが自分の夢を叶えられると門戸を叩いてくる、そのようなバランスのとれた懐の深い教室を作りたいと考えています。同窓会の皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



予防医学講座  
公衆衛生学分野  
玉腰 暁子  
(会員2)

このたび2012年4月1日、医学研究科予防医学講座公衆衛生学分野の教授を拝命いたしました。1956年6月に誕生し、50余年の間に全国の大学、厚生省、労働省、環境省、北海道、札幌市などの研究機関、行政機関に100数十名の同門生を送り出している歴史ある教室の責任を任せられたことを大変光栄に思うと同時に、責任の重さに身の引き締まる思いです。

公衆衛生は英語ではPublic Healthと呼

ばれています。Publicとは人々(集団)を、Healthは健康、保健を意味しますので、公衆衛生学とは集団全体の健康水準の維持向上のための実践であり学問分野であると言えます。対象とする領域は、たとえばこの北海道大学でも初代の安倍三史先生の時代は主として大気汚染など公害問題に取り組み、二代目石井慶蔵先生の時代は感染症、三代目近藤喜代太郎先生の時代は神経系疾患、先代岸玲子先生の時代は化学物質の健康影響、特に胎児期からの環境化学物質曝露による小児の発達影響など、その時々健康問題や科学技術、社会の価値観などにより変遷してきました。しかし、その目指すところは、すべての人々が社会の中でその人らしく生活できること

です。胎児・新生児から高齢者まで、健康な人も病気を抱えている人も、すべての人々を対象として、身体的・精神的健康を守り増進するための研究であり、その研究の成果に基づき実践し社会制度の設計につなげていくことが公衆衛生ともいえます。

日本の平均寿命は国際的に見て非常に高い水準にあります。しかし、それを今後も維持していくためには、加速する少子高齢化、うつ病・自殺者の増加、原発事故に引き続き放射能汚染など現代社会が生んでいる健康・医療問題への喫緊の対応が重要です。このような状況の中、社会医学には、諸問題への対応策の構築に資するエビデンスを創造することが求められています。私は、今後、社会からの様々な要請に応え

られるようなフィールドを北海道で立ち上げ、教員がそれぞれのバックグラウンドの特性を生かしながら研究活動を行えるようなシステム作りを進めていきたいと考えています。

言うまでもなく公衆衛生学の研究、そして実践活動には多くの人の協力が必要です。また、大学の研究室に閉じこもっては何もできません。行政の現場、産業衛生の現場など、多くの場所に出かけて研究を進め、結果を社会に還元していきたいと考えています。同窓会の諸先輩方におかれましては、ご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



北海道大学病院  
乳腺・内分泌外科  
山下 啓子  
(会員2)

平成24年4月1日、北海道大学病院に外科系診療科の再編に伴い新設された乳腺・内分泌外科の教授に就任いたしました。医学研究科では協力分野として外科学講座に新設された乳腺・内分泌外科学分野を担当いたします。謹んでご挨拶申し上げます。

私は名古屋市立大学を卒業して第二外科(胸腺腫の正岡分類を確立した正

岡昭教授)に入局し、数年の外科研修の後、小林俊三先生(第10回日本乳癌学会会長)、岩瀬弘敬先生(現在、熊本大学乳腺・内分泌外科教授)のご指導のもと乳癌を専門として現在に至っております。

1996年より3年間アメリカに留学して乳癌の基礎研究に従事しました。当時のアメリカはクリントン政権のもと医学研究に潤沢な資金が提供されており、特に8人の女性の1人が乳癌に罹患するアメリカでは、乳癌で研究費を申請すれば通る、と言われるほど乳癌研究に力が注がれていました。

日本では、乳癌は1990年代後半より

日本人女性の癌の罹患率の第1位となり増加の一途をたどっています。罹患率の増加に伴い乳癌に対する社会の認識も変わりつつありますが、旧国立大学においては乳腺・内分泌外科の講座はまだ数か所しか存在しません。今回、北海道大学で乳腺・内分泌外科が新設されたことは本当に画期的なことと思います。

また、25年前、私が医師として働き始めた頃は女性医師に対する社会的な認識がまだ薄い時代でした。今、女性医師は非常に働きやすくなりました。患者さんや家族、看護師さんなどにとって女性医師はあたりまえで、さらに男女

共同参画委員会がどこの組織にも存在し、いかに女性を活用するか考えてくれる時代となりました。

今後、北海道の乳癌診療に貢献するとともに、大学病院の様々な部門や大学院の講座と連携させていただき、トランスレーショナルリサーチを中心とする研究を行っていきたくと考えております。そして乳癌の診療や研究に力を注ぐ医師を一人でも多く育てたいと思っております。諸先生方におかれましては、どうぞご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## フラテ祭2012 9月開催

フラテ祭2012を、9月16日(日)に開催いたします。

フラテ祭は、平素からご支援をいただいております関係各位と医学部の親睦をさらに深め、医学部の現状を見ていただくことにより今後の抱負や課題を認識していただくための場として、2007年9月に第一回目を開催いたしました。

六回目を迎えます本年度も北大医学部の変化・革新をお伝えしつつ、肩肘張

らない楽しい「祭」となるよう、準備を進めております。

同窓生の皆様方は六月頃改めてご招待状をお送りする予定ですので、ふるってご参加をお待ち申し上げます。

フラテ祭実行委員会事務局

TEL: (011) 706-5012

FAX: (011) 706-7855

日時: 2012年9月16日(日) 13:30~19:00  
場所: 北海道大学医学部/フラテ会館(受付13:30~)

第1部 施設・キャンパスツアー 14:00~

●Aコース(医学部施設巡り)

平成16年に竣工した医歯学総合研究棟の法医学剖検室、電子顕微鏡室等の実験施設を中心にご案内します。

●Bコース(北海道大学病院巡り)

北大病院の外来棟や施設をご案内いたします。

●Cコース(キャンパス巡り)

北大構内全体をバスでご案内いたします。

第2部 講演会(フラテ会館・ホール) 15:30~

●北海道大学医学部長 玉木 長良先生

●北海道大学病院長 福田 諭先生

●特別講演 丹治 順先生

一音羽博次奨学基金授与式(フラテ会館・ホール) 17:00~

第3部 フラテ交歓会(フラテ会館・大研修室) 17:30~19:00

●ご挨拶 ●祝杯 ●祝宴 ●乾杯

※プログラムの内容は、一部変更になる可能性があります。

## 平成23年度 医学研究科・医学部医学科各賞受賞者

北海道大学大学院医学研究科・医学部医学科教職員・学生等の顕彰内規に基づく各賞について、平成23年度の受賞者が右記のとおり決定いたしました。(同窓生のみ掲載しております)

## ■優秀研究賞

[受賞者]  
畠山 鎮次  
(北大大学院医学研究科  
生化学講座医化学分野 教授)  
[業績名]  
ユビキチン化関連酵素による癌化制御の研究

## ■優秀論文賞

[受賞者]  
谷村 心太郎  
(市立千歳市民病院 皮膚科医長)  
[論文題目]  
Hair follicle stem cells provide a functional niche for melanocyte stem cells.  
[掲載雑誌]  
Cell Stem Cell. 2011 Feb 4;8(2):177-87

## ■特別賞

[受賞者]  
松宮 英視  
(北海道大学名誉教授)  
[業績名]  
臨床検査医学の研究及び教育を通しての地域医療従事者の育成

## 優秀研究賞を受賞して



畠山 鎮次  
(66期)

このたびは本学医学研究科の「優秀研究賞」を拝受することとなり、玉木研究科長をはじめ、選考委員の先生方、そしてご推薦いただいた佐邊教授に感謝申し上げます。私は北海道大学医学部および医学研究科の卒業であります。母校に縁があり2004年からは再び本学

でお世話になり、今年で既に8年を経過しようとしております。私の研究領域は「タンパク質翻訳後修飾」のひとつである「ユビキチン化」というものでありまして、このシステムはタンパク質分解のために反応系であります。北大に赴任してからは、新しい研究の方向に進もうと考えまして、当時はほとんど未知であった「TRIM型ユビキチンリガーゼ」という酵素群の研究に入ることとしました。TRIM型ユビキチンリガーゼは、ヒトゲノムに70以上存在するユビキチンリガーゼのファミリーであり、この8年間

で酵素 - 基質の関係の一部を明らかとしてきました。そして、この成果をもとに昨年度にはNature Reviews Cancer誌に執筆する機会をいただきました。

北大での研究を進めるにあたり、基礎医学研究で現在必要不可欠とされている新規の研究技術の導入を念頭に置きました。具体的には遺伝子改変マウスを自ら作製するための設備及び技術を導入すること、それからもう一つはポストゲノム時代に対応するために質量分析計を導入することです。これまでに、次の時代の技術の導入を見据えた体制作りの重要性を外部の研究機関で実感しておりましたので、今後も新しい技術に対するアンテナを持つこと

の重要性とそれらの速やかな導入の必要性を感じております。

今回の受賞は、実際には当分野で研究を行った多くの教員と大学院生たちの貢献によるものであります。最近では、タンパク質修飾(タンパク質分解)を基軸とした癌、神経分化、免疫などに関する基礎研究を進める一方、分子標的療法のシーズにつながる研究も開始しておりますので、この受賞を契機に、さらに医学研究科での基礎及び臨床研究の発展に微力ながらも貢献できればと考えております。医学研究科及び同窓会の先生方にこれからもお世話になることと存じますが、ご指導のほどお願い申し上げます。

## 優秀論文賞を受賞して



谷村 心太郎  
(77期)

このたび、医学研究科・医学部医学科「優秀論文賞」をいただくことになり大変光栄に思っております。直接ご指導いただきました西村栄美東京医科歯

科大学教授、皮膚科の清水宏教授、および研究室の皆様にご心より御礼申し上げます。

今回の賞を頂いた論文は、2011年2月のCell Stem Cellに掲載された論文です。本論文では、角化細胞の多能性幹細胞であり毛包の恒常部の下端領域に相当するバルジ領域に存在する毛包幹細胞が、ヘミデスマソームを構成する膜貫通型蛋白である17型コラーゲンを

高レベルで発現しており、毛包幹細胞の幹細胞性を維持するという役割を持つことを明らかにしました。それと同時に、毛包幹細胞がTGF-βシグナルを介して色素幹細胞の未分化性や休眠状態を促進制御していること、つまり毛包幹細胞が色素幹細胞のニッチとして機能するためにも必須であることを明らかにしました。特に、組織幹細胞自身が他の種類の幹細胞に対してニッチとしての機能を持ちうる点は、Drosophilaの生殖幹細胞などの一部の幹細胞以外にほとんど知られていない重要な知見で

した。このような組織幹細胞システムを制御する仕組みの解明は、白髪や脱毛の予防や治療、アンチエイジングや再生医療へと応用していく上でも極めて重要であり、今後著しく発展する分野であると考えています。

今回の受賞を励みに、これからは微力ながら医学の発展のために努力していきたいと思っております。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 特別賞を受賞して



松宮 英視  
(24期)

私が北大医学部を卒業したのは昭和24年でかなり前の事でした。医学部の当時の様相がそのまま印象に残ってい

たのですが、授賞式が待っていてくれたのは当時の図書館とは打って変わり、北大大学院医学研究科に姿を新しくし、玉木長良研究科長の根城となった施設であったのでした。授賞式に伺った私は歩行困難な状態で、この施設で車椅子をお借りして暫時待たせて頂き、授賞式の間中孫娘の手を借りておりました。

玉木先生がおいでになり、そのお部屋で授賞式が行われました。玉木先生から「臨床検査医学の研究及び教育を通じて地域医療従事者の育成、社会への貢献をされたこと、これらは貴殿の不断の努力の賜物であることから、『特別賞』を贈り表彰する」とのお言葉を頂戴しました。小生としては思いもかけない過重のおほめの言葉を頂いて何とも申し上げようもございませんでした。

また、続いて開かれた懇親会の折に受賞者がそれぞれお話をする段階では

私は微生物学が専門でありましたので、急性出血性結膜炎が今から数十年前に流行した時のことの一部をご紹介いたしました。他の受賞者の方々から現在進められている研究の貴重なお話を伺い、北大医学部の学問的発達及び進歩するであろうことが期待できる雰囲気大きいと思われました。従いまして皆様には十分にご健康に気を付けられて、益々研究に精進なさいますことを祈念する次第です。

## 平成23年度フラテ研究奨励賞報告

選考委員会委員長  
櫻木 範明(52期)

平成23年度のフラテ研究奨励賞は、平成23年12月1日から平成23年12月31日までの1ヵ月間公募され、11名の若手会員から応募があった。

平成24年1月20日(金)にフラテ研究奨励賞選考委員会を開催したが、予め審査資料(応募申請書、論文・業績一覧表等)を委員に送付して事前の評価をお願いし、委員会では各委員の意見をもとに研究業績、研究計画の発展性、同窓会・医学部等への実績・貢献度等について総合的に審査し、次の4名を受賞者として決定した。

平成24年2月13日(月)、札幌パークホテルにおいて授賞式を行い、会長から表彰盾及び研究奨励金50万円(目録)が授与された。

本研究助成制度は同窓会員の若手研究者(当年3月末日において40才未満の者)の創造的研究の育成に資することを目的として平成15年度に創設され、今回で9回目となった。平成23年度の応募数は11名と前年度よりも若干多くなったが、より多くの先進的研究を担う若手会員の応募を期待するものである。

■佐藤 大介(74期)  
所属:北海道大学大学院医学研究科  
生殖・発達医学講座小児科学分野  
研究課題:自閉症の分子遺伝学研究(感受性遺伝子SHANK1の同定)

■小野寺 智洋(75期)  
所属:北海道大学大学院医学研究科  
機能再生医学講座整形外科科学分野  
研究課題:組織再生を目指した形態形成における重要分子の機能解析

■木村 太一(77期)  
所属:北海道大学大学院医学研究科  
病理学講座腫瘍病理学分野  
研究課題:滑膜肉腫発症機構の分子病理学的研究:新規治療標的としての肉腫幹細胞

■氏家 英之(78期)  
所属:北海道大学大学院医学研究科  
感覚器病学講座皮膚科学分野  
研究課題:新規水疱性類天疱瘡アクティブマウスモデルを用いたT細胞サブセットの機能解析と治療法の開発

## 「受賞の喜び」

佐藤 大介  
(74期)

この度はフラテ研究奨励賞を頂き大変光栄です。選考委員および同窓会員の皆様方、有り難うございます。

私は平成10年北大卒業後、北大小児科に入局し臨床研修中に遺伝性疾患の病因に興味を持ち、大学院で「先天性奇形症候群の分子遺伝学解析」をテーマに、当時新川詔夫教授(42期)が主催されていた長崎大学医学部原研遺伝講座に3年間国内留学させて頂き、分子遺伝学の基礎から勉強させて頂きました。新川先生からは研究の楽しさ、厳しさ、英語の重要性を教えて頂きました。その後、研究の更なる発展を目指して平成21年よりカナダ、トロント小児病院に留学し、Dr. Stephen Schererの研究室で自閉症遺伝に関する研究を行っています。

近年、自閉症では全ゲノム網羅解析により発症とシナプス関連遺伝子のコピー数に相関関係があることが判明し、発症に神経シナプス蛋白質のアンバランスの関与が疑われています。この点に着目して自閉症のコピー数解析を中心にマイクロアレイを用いて研究を行っています。これまでに主にシナプスを構成するSHANK1, SHANK2, NRXN3, PTCHD1といった自閉症感受性遺伝子を報告してきました。

今回の受賞を励みにこれからも研究成果を世界に発信できるよう頑張ります。特に数多く引用してもらえようような良い論文を書いていけたらと願っています。今後とも宜しくお願い致します。

最後になりますが、研究の基礎から教えて頂いた新川先生、留学を快く許可して頂いた小児科、有賀教授に感謝して終わりにします。

小野寺 智洋  
(75期)

この度、フラテ研究奨励賞を頂くことができました。三浪明男教授在任中のラストイヤーにこのような賞を頂く事が出来て、とても光栄なことだと思っております。

今回の受賞は、大学院時代から続けてきた、組織再生を目指した重要分子の機能解析に関する研究成果が、受賞の対象となりました。思い返すと、研修医時代に、当時、函館中央病院にいらした大越康充先生のもとで前十字靭帯再建術を見させていただいた時に、健全組織を採取することなく前十字靭帯を再建することができないかと考えていたのが、現在の組織再生の研究を目指した研究のモチベーションになっていると思います。まだまだ、現存する治療を凌駕するような臨床応用までは程遠いような研究ですが、一歩ずつ地道な作業を続けていきたいと思っております。

この奨励賞は、もとより小生一人の力で獲得できるものではありません。日ごろから皆様のご支援あってのことと身に沁みて感じております。特に、大学院時代に指導してくださいました眞島任史先生、岩崎倫政先生、共に研究を行った当時大学院生だった皆様、また現在、一緒に研究を行っている現役大学院生の皆様に協力頂いて、初めて受賞できたものと痛感しております。重ねて御礼申し上げます。

今後も、北大整形外科教室から、色々と世の中に発信できるように頑張っていきたいと思っております。

最後に、今回の受賞にあたり多大なる御指導・御助力頂きました三浪教授に陳謝し、今後も、この受賞を糧に、基礎研究・臨床研究に励んでいきたいと思っております。

木村 太一  
(77期)

この度はフラテ研究奨励賞受賞の栄誉を賜り大変光栄に存じます。同窓会の諸先輩方、これまでの研究を直接ご指導頂いた腫瘍病理学分野の田中伸哉教授をはじめ教室員の皆様方、その他関係各位に厚く御礼申し上げます。

私は平成13年に北海道大学医学部を卒業後、当時長嶋和郎教授(現名誉教授)が主宰されていた旧分子細胞病理学分野(現腫瘍病理学分野)の大学院博士課程に進学しました。入学後すぐに田中先生に直接ご指導頂き、今回奨励賞を頂いた研究の端緒となる悪性軟部腫瘍の一つである滑膜肉腫発症機構の解明を目指して研究を始めました。学生時代の不勉強がたた、始めた当初は解らない事だらけで不安に苛まれる日々でしたが、長嶋先生、田中先生のご高配を賜って国内留学をさせて頂いた先で実験漬けの日々を過ごした甲斐もあって何とか今日まで研究を続けることができました。

基礎研究を中心に仕事をさせて頂いてきた私ですが、腫瘍病理学分野の両輪のもう片方である病理診断に関しても諸先輩方の薫陶を受け地道に日々精進させて頂いています。私見ですが、基礎研究では論理性や独創性、運などが必要とされる印象がある一方で、病理診断においては論理性の他に知識や経験が大変重要であると感じます。共通している所もありながら別々の側面も持つこの二つを学ぶ機会を得た事ができた自分は極めて幸運であったと感じます。

今後も基礎研究・病理診断を通して微力ながら医学の発展に少しでも貢献できればと考えておりますので、同窓の諸先輩方に暖かく見守って戴けると幸いです。

氏家 英之  
(78期)

このたびは大変栄誉ある賞に選出いただきまして、誠にありがとうございます。2006年に大学院に入学し、それ以来自己免疫性水疱症の研究を行ってまいりました。自己免疫性水疱症といっても聞きなれない方が多いと思いますが、自己抗体が皮膚に沈着することで生じる水疱症の総称です。各水疱症における自己抗体の標的抗原はほぼ明らかになっており、その明快な病態に魅力を感じ研究を始めましたが、勉強すればするほど多くの謎が潜んでいることがわかりました。水疱性類天疱瘡の病態解明と新規治療法の開発という大それたテーマを掲げ、「水疱性類天疱瘡マウスモデルの作製と解析」をメインに行ってきました。病気を再現することには何とか成功しましたが、治療実験がなかなかうまくいきません。マウスに病気を誘発したあげく治療できない、という現状を打破したいと思いを研究を続けています。最近、自己抗体産生における自己反応性T細胞の役割に興味を持ち、多角的に検討しています。

学生時代は研究にはあまり興味は無く、研修医時代も同じでした。大学院に入って実際に自分で考え、手を動かしてはじめて研究の面白さに気づきました。今さらながら、学生時代に基礎の講義をきちんと聞いておけばよかったと後悔しています。いつもご指導いただいている清水宏教授、大学院で研究を直接指導して下さいました芝木晃彦先生にこの場をお借りして御礼申し上げます。

今回の受賞は私にとって大きな励みになります。今後も臨床、研究に精進していく所存ですので、どうぞよろしくお願い致します。

# 理事会・評議員会報告

## 理事会

日 時：平成24年3月30日（金）  
開会 午後6時00分  
閉会 午後6時50分  
場 所：医学研究科管理棟（2階）  
大会議室  
出席者：理事8名、評議員会議長、  
評議員会副議長、  
役員選考委員会委員長

する年であるが、引き続きご協力をお願いしたい。

## 〔協議事項〕

- 評議員、予備評議員の選出  
各期から選出された評議員・予備評議員（任期：平成24年4月1日～平成26年3月31日）が了承された。
- 評議員会議長、副議長の選出  
評議員の互選により、議長に南 勝評議員（40期）、副議長に工藤 俊彦評議員（46期）が選出された。
- 役員（理事、監事）の選出  
・役員選考委員長から同委員会で選考された理事13名、監事2名の役員候補者が報告され、審議の結果、報告のとおり役員（任期：平成24年4月1日～平成26年3月31日）を選出した。  
・当日出席の理事の互選により、会長に浅香 正博理事（48期）が選出された。なお、副会長及び会計担当理事並びに編集担当理事は、後日、浅香 正博会長から委嘱いただくこととした。
- 平成23年度会計中間報告  
会計担当理事から報告があり、審議・了承された。
- 平成24年度会計予算（案）  
会計担当理事から説明があり、審議・了承された。

以 上

## 評議員会

日 時：平成24年3月30日（金）  
開会 午後7時05分  
閉会 午後8時00分  
場 所：医学部学友会館フラテ（1階）  
大研修室  
出席者：評議員・予備評議員65名  
（出席17名、委任状提出48名）、  
理事8名

## 〔報告事項〕

- 庶務、事業報告  
・平成24年2月13日（月）、平成23年度定例総会を札幌パークホテルで開催した。  
・総会の前に平成23年度フラテ研究奨励賞授賞式（受賞者4名）を行った。  
・総会では「平成22年度決算報告」及び「同監査報告」が報告され、了承された。  
・総会終了後、新入会員（88期）の歓迎会を開催、盛会裡に終了した。
- 編集報告  
・平成23年度の同窓会新聞は予定どおり発行した。  
・平成23年度は同窓会誌を発行したが、掲載予定の原稿が遅くなり、発送が平成24年1月になった。会誌の発送が遅くなり、会員にお詫び申し上げる。  
・平成24年度は同窓会会員名簿を発刊

## （追記）

- 後日、浅香会長から、副会長、会計担当理事、編集担当理事が下記のとおり委嘱された。
- 副会長に橋本 紘治理事（47期）及び寺沢 浩一理事（54期）
  - 会計担当理事に吉岡 充弘理事（60期）、編集担当理事に田中 伸哉理事（66期）

## 〈評議員・予備評議員〉

任期：平成24年4月1日～平成26年3月31日

評議員会議長：南 勝（40期）、副議長：工藤俊彦（46期）					
期	評議員	予備評議員	期	評議員	予備評議員
9	小竹 英夫		58	田中 淳司	田口 裕一
15	小野 淳信		59	松野 吉宏	
16	音羽 博次		60	山本 有平	當瀬 規嗣
18	大村 茂夫	加藤 久男	61	佐藤 典宏	後藤田裕子
19	小野 基		62	川浪 貢	
21	茂木 憲繁		63	加藤千恵次	伊東 学
22	恩村 雄太		64		高田 譲二
23	小國 親久	佐々木裕雄	65	渡利 英道	森田 研
24	飯田 正一	川岸 悦郎	66	畠山 鎮次	平山 恵美
25	吉田 長平	小菅 高之	67	矢部 一郎	増谷 学
26	竹内 隆	七戸 幸夫	68	南場 研一	古本 智夫
27	池端 隆	井門 英明	69	外丸 詩野	中島 泰志
28	三浦 旭	柳澤 守	70	相澤 寛志	三浦 淳
29	（未定）	（未定）	71	西原 広史	山田 崇弘
30	岸本總一郎	平山 亮夫	72	小林 徹	泉山 康
31	小林 義康	高橋 昭三	73	西田竜太郎	野呂 紀子
32	高下 泰三	横田 康正	74	田代 淳	近 祐次郎
33	能中 陽一		75	朝比奈 肇	夏井坂光輝
34	三浦敬一郎	坂岡 博	76	橋本 直樹	
35	今 忠正	田島 邦好	77	久保田佳奈子	武重宏呂修
36	近藤 浩	高杉 佑一	78	梅田 弘胤	深谷 進司
37	後藤 康之	浅野謙一郎	79	庄野 雄介	鈴木 陽三
38	佐藤 正治	田村 正秀	80	木佐 健悟	松島 理明
39	鈴木 重統	鎌田 覚	81	那須 裕也	中田 玲子
40	南 勝	阿部 和厚	82	伊東 慎市	
41	富樫 武弘	江端 英隆	83	清水 智弘	白井 慎一
42	安田 慶秀	小林 邦彦	84	庄司 哲明	横畠 絵美
43	関谷 千尋	三上 一成	85	白田 剛	辻岡 孝郎
44	中村仁志夫	石橋 輝雄	86	飯田あか奈	
45	宮坂 和男	藤 建夫	87	荒木 大	川島 圭介
46	工藤 俊彦	大宮司 信	88	福田 直樹	大場 彩音
47	田川 義継	本間 研一	専1	河村 弘司	
48	松野 一彦	小笹 茂	専2	三部 重喜	吉野 克己
49	川口 秀明	安達 一幸	専3	橋本 秀夫	
50	小林 清一	福田 公孝	専4	鈴木 功	吉尾 弘
51	佐藤 直樹	武蔵 学	専5	佐藤 雅夫	高橋 尚克
52	瀬谷 司	菊田 英明	専6旧	宮下 舜一	山岸 薫
53	渡邊 正夫	松下 卓郎	専6新	西 博	
54	吉田 純一	竹林 武宏	専7旧		三野 昭三
55	松浦 亨	大塚 吉則	専7新	池田 孝三	
56	武田 宏司	西澤 典子	会員2	渡邊 雅彦	藤田 博美
57	白土 博樹	秋田 弘俊			

## 新役員、評議員・予備評議員名簿

### 〈理事・監事〉

任期：平成24年4月1日～平成26年3月31日

役職	氏名	期	勤務先
会 長	浅香 正博	48	北大大学院医学研究科 がん予防内科学講座 特任教授
副会長	橋本 紘治	47	橋本耳鼻咽喉科医院 院長
	寺沢 浩一	54	北大大学院医学研究科 法医学分野 教授
会計理事	吉岡 充弘	60	北大大学院医学研究科 神経薬理学分野 教授
編集理事	田中 伸哉	66	北大大学院医学研究科 腫瘍病理学分野 教授
理 事	長瀬 清	40	北海道医師会 会長
	本原 敏司	49	函館市医師会病院 病院長
	松谷有希雄	51	国立保健医療科学院 院長
	櫻木 範明	52	北大大学院医学研究科 生殖内分泌・腫瘍学分野 教授
	佐久間一郎	55	医) 社団 カレスサッポロ 北光記念クリニック 所長
	笠原 正典	56	北大大学院医学研究科 分子病理学分野 教授
	小笠原和宏	59	釧路労災病院 外科 副院長
	新藤 純理	64	市立釧路総合病院 泌尿器科 部長
	監 事	小山 司	49
	桜田 教夫	専7新	医療法人社団同仁会 洞爺温泉病院

### 〈編集委員〉

役職	氏名	期	勤務先	
委員長	田中 伸哉	66	北大大学院医学研究科 腫瘍病理学分野 教授	
委 員	山科 賢児	55	やましな内科クリニック 院長	
	南須原康行	64	北海道大学病院 医療安全管理部 准教授	
	樋田 泰浩	67	北海道大学病院 循環器・呼吸器外科 講師	
	神島 保	70	北大大学院保健科学研究所 医用生体理工学分野 助教	
	石田 雄介	75	北大大学院医学研究科 腫瘍病理学分野	
	木佐 健悟	80	俱知安厚生病院 総合診療科	
	吉田 美穂	83	北大大学院医学研究科 血液内科学分野	
	(札幌連絡員)	田中 敏	71	札幌医科大学医学部 病理学第二講座 講師
	(旭医連絡員)	棚橋 祐典	66	旭川医科大学医学部 小児科学講座 助教
顧 問	長瀬 清	40	北海道医師会 会長	
	橋本 紘治	47	橋本耳鼻咽喉科医院 院長	
	佐久間一郎	55	医) 社団 カレスサッポロ 北光記念クリニック 所長	
	寺沢 浩一	54	北大大学院医学研究科 法医学分野 教授	
	柿崎 秀宏	59	旭川医科大学医学部 腎泌尿器外科学講座 教授	
	當瀬 規嗣	60	札幌医科大学医学部 細胞生理学講座 教授	

# 告知板

## ＜教授就任挨拶＞

富山大学大学院医学薬学研究部  
(医学) 脳神経外科  
黒田 敏 (62期)

このたび、富山大学脳神経外科の教授を拝命して平成24年3月16日に着任いたしました。これもひとえに北海道大学に入学してからの32年間の長きにわたって、ご指導いただいた同窓の先生皆さまのおかげです。特に、阿部 弘名誉教授、岩崎喜信名誉教授、宝金清博教授、中川 翼同門会長からは数多くのご指導をいただきました。あらためて、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。富山には立山、剣岳などの豊かな自然に加えて、寒ブリ、ホタルイカ、白エビ、氷見牛などの食材、立山、満寿泉などの銘酒が豊富です。富山にお越しの際は、ぜひご一報下さい。

東京医科大学八王子医療センター  
心臓血管外科  
西部俊哉 (62期)

この度、平成24年4月1日付けで教授会、理事会の承認を得て、外科学第二講座教授に就任しました。私は昭和61年北海道大学を卒業後、田邊達三教授主宰の北海道大学外科学第二講座に入局しております。平成5年から約3年間米国に留学し、平成8年から北海道大学病院心臓血管外科、平成14年から藤田保健衛生大学胸部心臓血管外科、平成21年から東京医科大学八王子医療センター心臓血管外科にて血管外科に従事しております。今後は与えられた職責を全うできるよう一層の努力をいたします。今後もしもご指導ご鞭撻を宜しくお願いします。

北大大学院 保健科学研究院  
医用生体理工学分野  
加藤千恵次 (63期)

このたび保健科学研究院医用生体理工学分野教授に就任いたしました。昭和56年に名大工学部原子核工学科中退、北大医学部入学、昭和62年に第1種放射線取扱主任者、昭和62年に北大病院放射線科研修医、平成4年に核医学講座助手を経てPET画像解析を主とした研究と核医学診療科業務と並行して平成16年から保健学科にて医用工学、電子回路学、プログラミング、核医学の講義および実習を担当しています。

保健科学研究院は教育業務の負担が大変ですが、今後も優秀な診療放射線技師と臨床検査技師の育成に努めたいと思います。

北大大学院 保健科学研究院  
教授  
尾崎倫孝 (会員2)

私は昭和59年岡山大学を卒業し、外科学を専攻しました。平成2年からは東京女子医大にて腎・肝・膵移植の臨床と研究に携わり、平成9年以降米国ジョンズホプキンス大学、(現) 国立成育医療研究センターにて細胞内レドックス制御と情報伝達の研究に従事しました。その後平成16年からは、北大・医学研究科にて置換外科・再生医学講座(特任准教授)、平成19年から分子制御外科学講座(特任教授)に籍を置き様々な研究に従事しました。この度、保健科学研究院に教授の職を戴くこととなり、過日着任致しました。今後肝臓病態生理、ストレス応答の機構について生体イメージング法を駆使して研究を進めていきたいと考えております。同窓の諸先生方の今後一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## ＜学内・院内人事異動＞

<b>＜定年＞</b>		
平成24年3月31日	今村 雅寛 (49期) 粕野 繁雄 (49期)	血液内科学教授(社会医療法人北楡会札幌北楡病院顧問) 麻酔科講師
<b>＜辞職＞</b>		
平成24年3月15日	黒田 敏 (62期)	脳神経外科講師 (富山大学大学院医学薬学研究部 (医学) 脳神経外科学講座教授)
平成24年3月31日	高橋 弘昌 (55期) 小田 淳 (59期) 髭 修平 (59期) 佐々木 聡 (62期) 小谷 善久 (65期) 佐澤 陽 (65期) 田中 博 (65期) 中西一 彰 (66期) 北川 信樹 (67期)	小児外科准教授(札幌厚生病院) 環境医学分野准教授(医療法人北武会理事) 第三内科講師(札幌厚生病院) 小児科講師(愛育病院) 整形外科講師(製鉄記念室蘭病院) 泌尿器科講師(帯広厚生病院) 泌尿器科講師(市立札幌病院泌尿器科) 移植外科学講座特任助教(北海道社会保険病院) 精神科神経科助教 (北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科医療福祉臨床学講座教授)
	中村 利仁 (67期) 古本 智夫 (68期) 佐藤 智信 (73期) 新田 卓也 (74期) 近 祐次郎 (74期) 西田 欽也 (76期) 菅野 正寛 (79期)	医療統計・医療システム学分野助教(千葉大学特任准教授) 循環器内科助教 医化学分野助教 眼科助教(KKR札幌医療センター) 第二内科助教(滝川市立病院) 整形外科助教(手稲溪仁会病院) 救急科助教(手稲溪仁会病院麻酔科)
<b>＜採用＞</b>		
平成24年3月1日	坂本 直哉 (会員2)	消化器内科学分野教授
平成24年4月1日	数又 研 (67期) 横尾 英樹 (68期) 崎濱 秀康 (70期) 清水 康 (71期) 細田 充主 (71期) 北市 雄士 (72期) 土屋 邦彦 (72期) 納谷 昌直 (73期) 橘田 岳也 (74期) 下國 達志 (74期) 浅野 賢道 (75期) 中西 喜嗣 (76期) 堀田記世彦 (76期) 平田 健司 (78期) 小野寺俊輔 (78期)	脳神経外科助教 消化器外科 I 助教 消化器外科 I 特任助教 腫瘍内科助教 乳腺・内分泌外科助教 精神科神経科助教 泌尿器科助教 循環器内科助教 泌尿器科助教 消化器外科 I 特任助教 消化器外科 II 特任助教 消化器外科 II 特任助教 血液浄化部助教 核医学分野助教 放射線医学分野特任助教
<b>＜任期満了＞</b>		
平成24年3月31日	本間 研一 (47期) 三浪 明男 (48期)	時間医学講座特任教授 (特定社団法人慶愛会札幌花園病院) 整形外科特任教授 (北海道中央労災病院せき損センター院長)
	小山 司 (49期) 川崎 亮輔 (71期) 三栖賢次郎 (71期) 永井 聡 (72期) 尾崎 倫孝 (会員2)	精神医学特任教授(大谷地病院臨床研究センター長) 第二外科助教(伊達赤十字病院) 第二外科助教(釧路赤十字病院) 第二内科助教(NTT東日本札幌病院) 分子制御外科学講座特任教授(大学院保健科学研究院教授)
<b>＜昇任＞</b>		
平成24年2月1日	堀田 哲也 (70期) 保田 晋助 (70期)	第二内科講師(病院第二内科助教) 免疫・代謝内科学分野講師(同分野助教)
平成24年4月1日	高橋 典彦 (65期) 森田 研 (65期) 泉 剛 (66期) 橋本 聡一 (66期) 山田 雅文 (66期) 七戸 俊明 (67期) 守屋 仁彦 (67期) 中馬 誠 (69期) 高畑 雅彦 (73期)	消化器外科 I 講師(病院第一外科助教) 泌尿器科講師(病院泌尿器科助教) 神経薬理学分野講師(同分野助教) 麻酔科講師(医学研究科助教) 小児科講師(病院小児科助教) 消化器外科学分野 II 准教授(同分野講師) 泌尿器科講師(医学研究科助教) 消化器内科講師(病院第三内科助教) 整形外科講師(病院整形外科助教)
<b>＜配置換＞</b>		
平成24年2月1日	木田 敦知 (71期)	麻酔科助教(病院麻酔科助手)
平成24年4月1日	安部 崇重 (71期) 岡本 祥三 (78期)	泌尿器科助教 核医学診療科助教
<b>＜出向(休職)＞</b>		
平成24年4月1日	穂刈 正昭 (74期) 奥 健志 (77期) 小原 修幸 (77期) 石川 聡司 (78期) 中野 史人 (79期)	脳神経外科特任助教(釧路労災病院) 内科 II 助教 耳鼻咽喉科助教(苫小牧市立病院) 産科特任助教(帯広厚生病院) 神経内科特任助教(市立函館病院)
<b>＜所属換＞</b>		
平成24年2月16日	葉谷 将城 (74期)	第三内科助教(病院光学医療診療部助教)

## ＜同期会案内＞

★檄!! 28期卒業60周年記念会開催  
想えばわれわれは、激動の昭和を生き抜いてきた世代である。中でも私ども28期は、入学した年が日本の敗戦と重なっていることに特別な宿命を感じる。今ここに、卒業60周年を迎えることが出来た感慨を、相集い祝おうではないか。数多くの期友のご参加を期待する。  
平成24年7月7日(土)  
札幌グランドホテル: 記念祝宴  
7月8日(日)  
母校キャンパス訪問・午餐～解散

(連絡先 三浦 旭)  
★北大医学部43期卒後45周年同期会のご案内  
北大医学部43期は今年卒後45周年を迎えます。最近こそ毎年同期会を開いていますが、5年ごとには大きな記念祝賀会と総会を思い出のある札幌で開いてきました。今年は趣を少し変え、9月15日にサッポロビール園にて前夜祭を、そして翌16日にはバスツアーにて支笏や昭和山を懐かしみ、夜ウインザーホテルに

て記念祝賀会を開催する予定で、皆が楽しめるよう詳細を幹事が中心になって今検討しているところです。(関谷記)  
★北大医学部58期卒後30周年同期会のご案内  
日時: 2012年8月25日(土曜日)  
場所: ジャスマックプラザホテル  
札幌市中央区南7条西3丁目  
電話 011-551-3333  
ファクス 011-552-3330  
会費: 13000円(集合写真・二次会含む)

進行: 17:45 写真撮影(フロント前集合)  
18:00 一次会(地下1F 花遊膳)  
20:15 二次会(6F ポセイドン)  
22:30 終了  
尚、宴会前に入浴できますので、受付でロッカーキーを貰ってください(手ぶらでOKです)。  
また、宿泊希望者は直接ホテルにお申し込みください。(シングル約12000円)  
幹事 田口 裕一、田中 淳司

# 新刊書紹介

編集委員会は3月(5月号)、7月(9月号)、11月(1月号)の各月上旬~20日頃迄に開催しております。新刊書をご紹介くださる方は、それに間に合うよう、紹介文を書いていただく会員名と一緒に事務局までお知らせくださいますよう、よろしくお願いいたします。



「エロスと曼荼羅 ~臨床医の旅見聞録」  
井上 勝六(43期)  
丸善プラネット  
¥1,575

燃え上がる炎を背景に黒々と「エロスと曼荼羅」の太文字、刺激的な表紙だ(車内で気恥ずかしいからカバーをかけた)。食に関して多数上梓してきた井上君が、一転エロスだなんて!彼はそんなに助平男だったのか。

副題に「臨床医の旅見聞録」。だが単なる「見て回って食べた」の話ではなかった。世界各地で何を感じたか。宗教・文化・歴史・環境を通じて古今東西、未来へと広がる。軽妙な文章に引き込まれ、共に旅した気分を味わい、「人生という旅」に想いを重ねた。

第1章「トラベルとトラブル」は医師の視点から悲喜混交の「旅の骨折り」、同窓諸氏はきっと共感するだろう。次章「エロスと曼荼羅」では「スケベな医者」の趣味が高じた「話かと思いきや、大間違い。宗教的経緯を踏まえつつ、人間そのもの、生命の源泉としての愚かで哀しい煩悩による曼荼羅(本質)模様が綴られる。一体誰がエロス本といえよう。終章「獅子座の思想」は印度の森、モンゴル草原、消えゆくアラル海などへの紀行から環境と人間の関わりに思いを馳せる。「抗生から共生」、「煽る文化から鎮める文化」、滅びゆく地球と我欲に執着する人類を批評し、人間の性急な営みにふと足を留めさせる。失

礼ながら甲州は片田舎、南アルプスを望む葡萄畑に囲まれた小医院。彼は寡黙で飄々とした風貌の裏側でひたすら思索を深めていた。同期にもつことを誇りに思う。ぜひご一読を。

(43期 水野文雄)



「最新版 献血と輸血のすべて」  
霜山 龍志(53期)  
丸善出版サービスセンター  
¥1,000

霜山龍志先生の著書、「献血と輸血のすべて」最新版、の書評を依頼された。彼と私は同期で、学生時代は北大交響楽団とともに音楽を楽しんだ仲である。それに加え私が血液学を専攻して自治医科大学、その後帝京大学とずっと大学で勤務している事が依頼の理由であろう。最新版という事は以前に旧版があり、はしがきを見ると1997年に「今日の輸血」が、2006年にその改訂新版が上梓されている。通読して、献血と輸血の膨大な内容がコンパクトにまとめられており、特に前半の献血の部分は読み物としても楽しめた。中盤の輸血の実際や副作用の部分は本書の中核となる部分で、著者の長年の経験が生かされた説得力のある内容となっている。後半は造血幹細胞移植、細胞治療、人工血液、放射能と血液など大きなテーマを2、3ページずつ扱っておりやや物足りない部分もあるが、著者のいうように『献血と輸血を有機的な関係において描写した書籍』として得難い一冊に仕上がっている。本書の裏表紙には本書が霜山メディカルサイエンス・シリーズの第4巻である事が記載されており、2010年10月から立て続けにセカンドオペニオン・クリニック、安全と安心の社会科学、東日本大震災と福島原発事故の3冊を発行し、次は予防接種の光と影、を出版予定とある。霜山先生からは折に触れて著書を送っていただいていたが、実は数年前に最終論

文集と称する黒い表紙の不気味な出版物をいただいた。今回改めてそれも参照したが、随分と苦勞をされたようである。そのような状況から立ち直り、再びこのように書籍を刊行し続ける気力と努力に敬意を表したい。

(53期 吉田 稔)



「考える身体診察」  
大滝 純司(会員2) 監修  
文光堂  
¥5,040

身体診察を鑑別診断と組み合わせて学ぶことを目指して編集した本です。

画像診断の発達などに伴い、身体診察に関するエビデンスが蓄積され、日本の卒前教育に共用試験OSCEが導入されたことも影響して、身体診察手技の学習は標準化されてきています。しかし、学生や研修医をみますと、診察が得意ではない人が少なくありません。症例提示でも、身体所見の説明を飛ばしたり、病態の鑑別に重要な身体所見を把握していない例が目立ちます。ベテラン医師でも、私も含めて、専門外の診察は苦手なことがしばしばあります。

この本は、文科省の科研費を受けた研究活動から派生したものです。編集メンバーは、イリノイ大学シカゴ校の医学教育学部門と共同で、HDPE(Hypothesis Driven Physical Examinationの略)と名付けた身体診察教育の基盤となる考え方を提案し、それを応用した評価方法や教材の研究開発を続けています。HDPEは日本語では「鑑別診断を考えながら行う身体診察」と訳しています。この研究班は、臨床医が身体診察を行う際に、診断を考えないまま診察するのではなく、あらかじめ鑑別診断を頭に思い描きながら診察を行っていることに着目しました。そして、診断の思考過程と組み合わせて身体診察を学ぶと、学習がより効果的になると考えたのです。

この本には部位別の身体診察は載っていません。そのかわりに、具体的な診療の中での身体診察を例示しています。鑑別診

断を考え、それをrule inあるいはrule outするために「狙った身体所見を取りに行く」やり方を中心とまとめてあります。執筆は、全国の指導医や後期研修医に幅広くお願いいたしました。今後は改訂しながら拡充させたいと考えていますので、是非ご一読頂き、ご批判やご意見等をいただければ幸いです。

## お知らせ

今年度は、平成24年度同窓会会員名簿発刊の年となっており、例年通り12月上旬に発送を予定いたしております。平成24年度同窓会会員名簿掲載用の住所変更等は、11月1日(木)をもって締切とさせていただきますので、ご了承願います。変更事項がございましたら、期日までにお知らせください。メールやFAXでも結構ですので、よろしく願います。また、評議員の先生方には8月1日前後に会員一覧表をお送りいたしますので、訂正等がございましたらよろしく願います。

なお、同窓会事務局では、名簿整備等を理由に、同窓会会員やその会員のかつての勤務先等に直接電話をかけ、住所等の確認をするようなことは一切していません。同窓会役員(理事・監事等、評議員・予備評議員、編集委員)が、名簿確認の業務をすることもありませんので、会員名をかたる偽の問い合わせにはご注意ください。そのような問い合わせがございましたら、一度電話をお切りになり、必ず同窓会事務局までご確認くださいませよう、願います。

〈問い合わせ先〉  
北海道大学医学部同窓会事務局  
〒060-8638  
札幌市北区北15条西7丁目  
TEL&FAX: (011) 706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
URL: http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum/w/

## ご逝去者

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
平成23年			3月10日	山田 稔	専3
2月	浅野 稔	31	3月11日	野宮 留夫	専5
2月23日	渡辺 皓司	専旧7	3月29日	石金 昌晴	29
6月27日	関塚 正昭	31	3月30日	丸山 俊蔵	専6旧
8月9日	井上 和秋	35	4月14日	齋木 功	57
11月2日	飯田 正衛	14	5月11日	倉増 猛	専4
11月13日	岩島 敏勝	専新7	5月16日	若濱 三郎	専7新
平成24年			5月29日	南 正康	38
1月23日	伊東 忠人	16	6月3日	吉田 良夫	専6新
1月31日	若松 時夫	22	6月3日	熊谷 満	専7旧
1月31日	水落 知	25	6月5日	藤田 正之	専6旧
2月3日	及川 慶文	28	6月10日	菊田 浩	専3
2月12日	松井 将	23	6月12日	鈴木 武彦	18

■お詫びと訂正  
先般発刊の『同窓会誌2011』の掲載記事「染色体の歌」におきまして著者本人より修正希望がありました。訂正箇所は以下の通りです。  
P335 23行目 誤)17番染色体 → 正)21番染色体  
P337 13行目 誤)46期の → 正)47期の  
『同窓会新聞141号』について誤りがありました。  
P1「年頭のご挨拶」記事  
誤)「卒業後50年となられた35期の皆様から」「この紙面をかり35期の皆様へ」  
正)「いずれも[37期]」  
P4「先生ご無沙汰しています」記事  
誤)「失礼ですが、そのお手で手術は大丈夫なのですか?」  
正)「失礼ですが、そのお年で手術は大丈夫なのですか?」  
お詫びして訂正いたします。

## 一面の写真説明

### 「新緑の銀杏並木」

木佐 健悟(80期)

秋には大学関係者のみならず観光客で賑わう13条門から続く銀杏並木です

### 編集後記

この度浅香同窓会会長より編集委員長を御指名戴きました66期の田中です。同窓会会員の皆様に改めてご挨拶申し上げます。この歴史と伝統のある北大医学部同窓会新聞の編集委員長ということで大変緊張しています。昭和36年の創刊号をみても、東京フラテ会の新聞が先にあり好評だったことがわかりました。また、創刊の辞は当時の同窓会長の第2病理教授の安保壽先生(1期)が書かれており、編集委員長は脳外科医で2病の同門でもある19期の

が、春には若々しい新緑が輝き、新年度で活気づく大学を彩ります。

公道から北大病院や医学部へ向かうにはこの通りを歩かずに直接病院側から入るのが近いですが、時には少し遠回りをして、四季それぞれの銀杏並木を歩いてみてはいかがでしょうか。

都留美都雄先生でした。私は今第2病理の教授室で安保先生から引き継いだ机の上でこの文章を書いており人の縁、先輩後輩の強い縁を感じています。当時の編集後記には「この新聞は単なる医学部の事務通信ではない、会員諸氏からの楽しい記事の投稿をお待ちします」、とあります。この精神を今まで同様受け継ぎ、医学部100周年に向けて会員の相互理解をより深めて行くことができたいと思います。皆様ご指導、ご意見、ご投稿宜しく願います。

印刷所 株式会社DNP北海道

〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号  
代表(011)750-2205